

高齢ドライバーの事故に注意！

わだい

秋の全国交通安全運動出発式

9月21日～30日まで実施された秋の全国交通安全運動に合わせて、9月21日に阿蘇市役所で同運動の出発式が行われました。出発式には交通安全協会や交通指導員など約200名が参加。永年無事故運転者の表彰や阿蘇中央幼稚園の園児による交通安全祈願の千羽鶴が贈呈されました。

阿蘇警察署の星原茂幸署長のあいさつでは、「秋は特に事故が多くなる季節。近年は高齢ドライバーの事故が増加している。交通事故が一件でも減少するよう注意してほしい」と話がありました。

出発式終了後は広報車により市内の巡回が行われました。



出発式の様子



特別賞の小関さん。圧巻のパフォーマンスを披露

自慢の歌を熱唱

阿蘇市で『NHKのど自慢』生放送

日曜お昼の人気番組「NHKのど自慢」の生中継収録が9月24日、阿蘇体育館で開かれ大勢の観覧者でにぎわいました。

前日の予選会で250組の中から選ばれた20組が出場し、自慢の歌を披露。出場者の熱唱、熱演で会場は大いに盛り上がりました。

結果は6人が合格、宇土市在住21歳の男性がチャンピオンとなりました。また、内牧小学校教師の小関留美さんが山本リンダさんの「どうにもとまらない」を力強く歌い特別賞に輝きました。

番組の最後にはゲストの島津亜矢さん、山内惠介さんの歌声も披露され、大盛況の内に放送を終えました。

合併以来の功績が認められ

佐伯和弘氏が監査事務功労者総務大臣表彰

地方自治法施行70周年記念の年に併せて、多年監査事務に精励し地方自治の発展に貢献された阿蘇市代表監査委員を務める佐伯和弘氏（山田）に、監査事務功労者として総務大臣から表彰状が贈られ9月25日、佐藤市長へ報告に訪れました。

佐伯氏は平成17年4月から阿蘇市代表監査委員を務め、以来、現在に至るまで市の行財政運営に関し、常に公正不偏の姿勢で適切な監査を行っています。今回の表彰は、住民の福祉の増進と地方自治の本旨の実現に、その能力を遺憾なく発揮されている功績が認められたものです。今後引き続き監査委員としての活躍が期待されます。

表彰



報告に訪れた佐伯氏（左）

わだい



全4学科の一年生が協力して稲刈りを行った

交流を兼ねて農作業体験

阿蘇中央高校一年生による一斉稲刈り

阿蘇中央高校の春牧農場で9月29日、一年生173名が鎌を使って一斉に稲刈りを行いました。阿蘇中央高校は、阿蘇校舎と清峰校舎の2カ所に分かれており、学年全員で取り組む活動として今回実施された農業体験を含め、体育祭、文化祭の3つの行事で生徒の交流が行われていきます。収穫した稲は、5月下旬に一年生全員で手植えしたもので、農業食品科の生徒が管理し今回の稲刈りを迎えました。担当の後藤至成先生は、「阿蘇のお米は美味しく安全。米のコンクールなどを通し全国に知ってもらい米農家を元気にしたい」と抱負を語りました。収穫したお米は11月18日(土)の湧穂祭文化祭でも販売されます。

熊本地震から施設が復旧

阿蘇火山博物館がグランドオープン

阿蘇の主要な観光施設の一つである阿蘇火山博物館が、熊本地震で被災した施設の復旧工事を完了し10月1日にグランドオープンしました。本博物館は、地震後、施設の損傷や登山道路の寸断から約6カ月間休館し、その後仮営業を行っていましたが、1階のカフェや受付などの工事も完了し、本格的に営業を再開しました。オープニングセレモニーでは、公益財団法人阿蘇火山博物館久木文化財団の久木康裕理事長が「多くの人たちの力で再開できた。来年度は施設内に環境省のビジターセンターも新設する。阿蘇地域全体の復興に寄与したい」と今後の展望を語りました。

わだい



スクリーンで復旧の軌跡を紹介

わだい



自ら考案した商品を販売する波野中学校の生徒たち

波野のそばを使い特産品考案

波野中学校の生徒が新商品を試験販売

波野中学校3年生の生徒12名が10月7日、道の駅波野「神楽苑」で地元の特産品であるそばを使用したガレットとケーキパンを販売しました。波野中学校は熊本県教育委員会の学校給食・食育推進校に指定されており、地域おこしについて学ぶ社会科の授業の中で特産品を考案。今回、道の駅波野「神楽苑」の協力で商品を製造し試験販売を行いました。波野の野菜と阿蘇のソーセージを入れたガレット100個と波野のトマトジャムとそばクッキーを添えたケーキパン50個は好評のうちに完売しました。今後は市の特産品として同道の駅内での実用販売に向けて取り組んでいく予定です。

おいしい新米を召し上がれ

第20回阿蘇マルシェで新米祭りを開催

阿蘇草原保全活動センターにおいて、10月1日、阿蘇マルシェが開催されました。
今回のマルシェでは、「実りの秋大収穫祭 新米祭り」と題して実施。阿蘇市の農家から提供された新米3種を会場内の釜戸で薪を使って炊き、来場者に朝ごはんとして提供しました。とれたての新米は大変好評で、訪れた人達は喜んで購入していました。
また、料理を担当した内牧料理維新の会（松岡陽仁会長）は、「阿蘇の農作物等のイベントに活用してほしい」と今回使用した釜戸5基を阿蘇マルシェ実行委員会に寄贈しました。今後イベントなどで利用を希望する人への貸し出しも行われます。

わだい



釜戸で炊いた新米は来場者に大好評

わだい



ステージイベントは大勢のお客さんが観覧

地域の交流の場に

交流の家はみんなの家 inASO 開催

国立阿蘇青少年交流の家で10月1日、『交流の家はみんなの広場 in ASO』が開かれ、大勢のお客さんで賑わいました。
この催しは、地元の人たちに青少年交流の家を身近に感じてもらうために毎年施設を開放して開催しており、今年で12回目となります。会場では、地元のミュージシャンやパフォーマーによるステージショーや、飲食ブース、体験コーナーなどを設置し、家族連れなど多くの人が訪れました。
同施設の森山所長は「熊本地震からの復旧工事を終え、グラウンドで開催できた。12月3日（日）にも別のイベントを企画しているので多くの人にお越しいただきたい」と話しました。

親睦深める体育大会

阿蘇郡市身体障がい者体育大会

身体障がい者の健康保持やお互いの親睦を深めることを目的に10月6日、阿蘇体育館で第41回阿蘇郡市身体障がい者体育大会が開かれました。
大会には阿蘇郡市から10チーム約250名が参加。輪投げやゲート通し、玉入れなどの競技が行われ、各市町村チーム対抗競技では応援にも熱が入り会場は大いに盛り上がりました。阿蘇市からも3チームが参加し、阿蘇市Aチームが総合で2位に輝きました。
昨年は、熊本地震の影響により大会が中止されたため2年ぶりの開催となり、出場者の生き生きとした表情が多くみられました。

わだい



白熱したボールリレーの様子

News



宮地保育園の5歳児は落成式でマーチングを披露



WebTV アソ
動画

新しい宮地保育園の園舎が完成

宮地保育園新園舎落成式

移転新築した宮地保育園（三村栄史理事長）の落成式が10月7日に行われ、関係者約180名が出席しました。

建て替え前の宮地保育園の園舎は昭和51年に旧一の宮町立宮地保育園として建築され、約40年間利用されてきました。平成24年に社会福祉法人まどか会へ運営を委託し施設の老朽化に伴い園舎を新築。このたび木造鋼板葺平屋建で約951㎡の新しい園舎が完成しました。

落成式では、宮地保育園の園児とともに同法人が運営する古城保育園の園児も参加し、お遊戯や日本太鼓、マーチングを披露。新しい園舎の完成に花を添えました。

秋の夜に神楽舞う

第26回神楽フェスティバル

第26回神楽フェスティバルが10月7日、道の駅波野「神楽苑」で開かれ、中江・横堀両岩戸神楽保存会や波野小中学校の神楽クラブ、波野太鼓黒鷲のほか大分県の4つの神楽団体が出演し、見事な演舞や演奏を披露しました。

今年は神楽フェスティバルが始まって以来初めての夜神楽が披露され、陽が落ちた舞台で舞う中江・横堀両岩戸神楽保存会の演舞に会場は幻想的な雰囲気になりました。また、会場内ではプロジェクションマッピングやお楽しみ抽選会、飲食ブースの開設など新たな取り組みも行われ、約1400名の観客で賑わいました。

わだい



フェスティバルで初の夜神楽を披露



WebTV アソ
動画

わだい



阿蘇中央高校による書吟

美しい地球を子ども達に

みんなのFUJISAN 地球フェスタ WA2017 九州 in 阿蘇

美しい地球を後世に残すための取り組み「みんなのFUJISAN 地球フェスタ WA2017 九州 in 阿蘇」が10月14日（土）の2日間、はな阿蘇美や阿蘇体育館などで開かれました。

この取り組みは、稲作を中心とした農業や日本の伝統文化と精神の継承、また、地方創生などをテーマとして行われ、稲刈り体験や子どもと世界の大使との交流会、ステージイベントなどが行われました。

ステージイベントの音楽劇では、ダンスや歌、剣道、書道などで阿蘇の起源や未来への展望などを表現。阿蘇中央高校書道部は書吟を披露し、音楽に合わせ見事な書が完成すると会場から大きな拍手が贈られました。